



大津波想定し、初の避難訓練
 桂木町会が避難訓練5/19
 桂木町会が大津波を想定した避難訓練を行い、地域住民と地域にある2事業所の合わせて66人が参加しました。
 500年間隔地震を想定して行われた訓練は、市と根室警察署の協力で実施され、午前8時55分に、市の広報車での避難指示から訓練がスタート。地域住民は避難経路の道順の確認しながら徒歩や車で避難し、避難指示から22分後に避難を完了しました。
 訓練後、門前町会長は「初めて本格的な訓練を行い、地域住民から挙がった反省点や課題を次回に活かしていきたい。」と、訓練を振り返り、地域住民もまた防災への意識を高めていました。

初開催となる発表会は、道内在住の一流シェフ5人から時鮭の胡麻風味焼きやゲンゲの南蛮漬けなど、歯舞産の鮮魚を使用した創作料理8品が提供され、調理を担当したシェフからプロジェクトを使った一品ずつレシピの紹介も行われ、詰めかけた市民は、一流シェフによる普段とは一味違った地元の水産物の魅力を堪能していました。

一味違う地元の魅力を堪能
 歯舞お魚料理発表会4/28
 歯舞産の水産物の知名度アップとブランド化を目的に、「歯舞お魚料理発表会」が歯舞漁協、歯舞水産物ブランド化推進協議会と市の共催で開催され、会場となった総合文化会館には多くの市民が詰めかけました。



大漁旗をなびかせ一斉に出漁
 ロシア水域でマズ漁5/25
 ロシア200カイリ水域で操業する北洋サケ・マズ漁の小型船20隻が2日、花咲港から一斉に出漁しました。
 当日は、出港の汽笛が鳴り響く中、漁船員の家族と漁業関係者が見送りに駆けつけ、大漁の期待を背に、漁船員は笑顔で手を振る姿が見られるなど、にぎやかな船出となりました。
 今年は、燃油の高騰や魚価の低迷など、厳しい環境の中での出漁となりましたが、小型船に続いて11日には、12隻の中型船が出漁し、小型、中型船併せて昨年より7隻多い漁船が出漁となり、根室のサケ・マズ漁は一気に最盛期を迎えます。

ゴールデンウィーク中ということもあり、多くの親子連れでにぎわう会場では、風船で動物や剣を作る「マジックバルーン」や、消防車等の動く車に乗車しての記念撮影など、さまざまなアトラクションが用意され、北方領土3択クイズコーナーでは、お友達と競い合いながら解答する姿が見られ、子どもたちは楽しみながら北方領土についての知識を深めていました。

連休の楽しいひととき
 第44回子どもの日のつどい5/3
 「子どもの日」を祝うとともに、北方領土について正しい認識をつけてもらうことを目的に、例年開催されている「子どもの日のつどい」が、今年も総合文化会館で開催されました。



2年間の活動を笑顔で報告
 青年海外協隊八木橋さん市長表敬訪問4/19
 JICAの青年海外協力隊としてタンザニアに派遣されていた根室出身の八木橋美花さんが、現地での活動報告のため長谷川市長を表敬訪問しました。
 水産加工業に従事していた経験を生かし、現地の水産系人材育成機関での加工処理や衛生管理の指導などを行ってきたことを長谷川市長に報告し「とても貴重な経験ができました。」と、笑顔で振り返り、長谷川市長から「この経験を生かして行ってほしい。」と、激励が送られ「これから根室で魚に関わる仕事に就きたい。」と、八木橋さんは今後の展望を目を輝かせながら話していました。